



宮崎 香蓮

# 育子からの手紙

村橋明郎監督作品

「生きる」ことへの希望 明日への夢を  
どんなときも投げ出さなかった少女の物語を  
お伝えしたいのです

実也 森宮 天颶 中田 中西 渡辺

良太 実中 桦渡

恒彦  
(特別出演)  
佐藤 B作

原 日出子

文部科学省特別選定作品(少年・青年・家庭向)

企画・製作 相澤 哲 原作 劇島喜美子「育子からの手紙」(筑摩書房刊) 計画 岩田元森・村橋明郎  
撮影 幸沼範雄 JSC・昭和 森谷清志/銀座 紅谷信一(FA) /美術 甘内悦子 /編集 大庭 駿 /音楽 朝倉紀行 主題歌「ほほえみの花」大津實子・ユニハーフルミュージック  
協力 実業放送建築事務所 特別協賛 全日本青少年育成アドバイザー連合会/花と緑の研究所/日本ウォーグ社/ウォーク宇治  
後援 社団法人日本医師会/社団法人日本看護協会/NPO法人ゴールドリボンネットワーク 助成 文化芸術振興費補助金  
製作 フィルム・クリエイション 記念「育子からの手紙」製作委員会  
www.film-crescent.com/ikuko



“育子からの手紙”は「看護の日」を応援しています

*story* 喜美子(原日出子)の入院する病室に13歳の少女、育子(宮崎香蓮)が緊急入院した。骨折と激しい痛みに苦しむ姿と献身的に看病する母(有森也実)の姿は、喜美子にはとても他人事には思えない。それはまるで少女時代の自分と母親の姿だった。思わず声をかける喜美子に少しずつ心をひらいていく育子。慰め励まされるうちに病気と闘う同志のような絆がふたりに生まれていた。

退院、リハビリ、夫の転勤とめまぐるしい生活におわれながら今日も喜美子は手作りの押花を添えて手紙を書いている。入退院を繰り返す育子の手紙にも明るい日常がおどっている。心折れそうな日々も、まるで年齢を超えた「親友」のように語り合う手紙がふたりを支えていた。心の絆は、ふたつの家族の絆にもなっていく。だが、ある日、一本の電話が鳴って…♪



## どんなときも夢をあきらめない 少女の希望と勇気を あなたに お伝えしたいのです…



*introduction* 「育子からの手紙」(1989)は、15歳という若さで他界した少女の「生」と「希望」を世に伝えたい、その一心でふつうの主婦が記した著作である。著者は、小学生以来で再発した結核性股関節炎のために片下肢の関節の固定手術を受けた。入院先の病室でとなり合わせたのが育子という少女。やがて、ふたりはそれぞれの生活に戻り、離ればなれになるが、交わした手紙は言葉を超えた心の絆をいっそう強くした。病気と闘いながら急速に成長していく多感な少女、どんなときも希望と明日をあきらめなかった育子の実話は、ロングセラーとなり現在に至る。本作は原作を基に、再び現代に「生」と「希望」を問い合わせ、「愛」と「感謝」を伝える文芸作である。

『まぼろしの邪馬台国』(08)などで高評される宮崎香蓮、そして、原日出子、有森也実、天宮良、颯太、渡瀬恒彦、佐藤B作、と珠玉の演技派キャストを、また監督に『しあわせになろうね』(98)他、多数のテレビ作品の演出、脚本を手がける村橋明郎を迎え、「ひかりごけ」(92)、「ちぎれ雲～いつか老人介護」(99)、「かかしの旅」(06)など、優しいヒューマンドラマを通じて、社会に意識を問いかけるフィルム・クレッセントが製作。

感謝のメッセージ ————— 副島 喜美子 原作「育子からの手紙」(筑摩書房刊)著者

20年前の話の映画なんて受け入れられるのかしら？ そう思っていた私に、「この本には今の日本人が失いかけている何かが有る」と、言ってくださった皆さん、あの日、苦しいからこそ「泣いても一日、笑っても一日、同じ一日なら笑っていよう！」と教えてくれた育ちゃん、…ありがとう！ 皆さんに本当に感謝しています

# 育子からの手紙

村橋明郎 監督作品

CAST 宮崎 香蓮／原 日出子／有森 也実／天宮 良／颯 太／田中 実／中西 良太／渡辺 桂／渡瀬 恒彦(特別出演)／佐藤 B作

[ 2010年/35mm/ピースタサイズ/ DOLBY /上映時間106分 ] [www.film-crescent.com/ikuko](http://www.film-crescent.com/ikuko) ©「育子からの手紙」製作委員会2010